

デザイン学科

キーワード

デザイン、かわいい、サウンドスケープ、シークエンス、表記法、都市、景観、サイン



教授 / 博士 (学術)

池田 岳史

Takeshi Ikeda

学歴

愛知工業大学 工学部 建築学科、愛知県立芸術大学 大学院 美術研究科 デザイン専攻 修士課程、京都工芸繊維大学 大学院 工芸科学研究科 機能科学専攻 博士後期課程

経歴

福井工業大学 講師、助教授 / 准教授、教授

相談・講演・共同研究に応じられるテーマ

サウンドスケープ (音の風景) の観光資源化
シークエンス (連続継起的変化) 研究を援用した景観整備、サイン整備

メールアドレス

ttikeda@fukui-ut.ac.jp



主な研究と特徴

「“かわいい”空間におけるサウンドスケープ研究」

本研究は、“かわいい”空間においてのサウンドスケープについて、その性質や魅力を明らかにするとともに、持続可能な観光資源化の可能性について検討することを目的としている。本研究では、季節や天候、時間、特性の異なる空間など、状況を変化させて、空間構成調査や集音調査を行っている。2016年度14、2017年度11、2018年度2、2019年度に15回の合計42回の調査を行った。

調査結果から、“かわいい”を構成する要素として、音要素の重要性を確認することができ、この音要素によって構成されるサウンドスケープが、魅力的な観光資源となる可能性についても確認している。また、特にこれらの調査結果から、魅力的なサウンドスケープとして、観光資源化の可能性が高いと考えられる神社空間とそのかわいにおいての調査を重点的に行うこととし、10社の採音調査と分析を行った結果、空間の魅力を創り出す要素としてのランドスケープとサウンドスケープについて明らかにすることができた。今後もサウンドスケープについて調査を進めることで、その魅力を観光資源化する可能性を見いだしていくこととしている。



図1. 長崎県平戸市の山大島のサウンドスケープ

「交通結節点における誘導サインによる情報提供の最適化」

本研究は、交通結節点であるターミナル駅と駅前広場などを含むその周辺空間において、既設誘導サインの調査、分析を行い、サインによる情報提供シークエンスの最適化を目指した提案を行っている。

空間利用者の視点からの既設サインデータの抽出に用いる手法として、仮想3D空間映像を用いる方法とCONTINUOUS RECORD 表記法の抽出データを比較した結果、表記法による抽出は有効であることも確認している。

実空間の調査として、交通結節点である路面電車との結節がある日本国内17駅の調査を行い、この内、詳細な分析を行ったJR岡山、JR広島、JR鹿児島中央駅において、シークエンス空間変化と既設サインの設置状況を分析し、設置空間と掲出情報の問題点を明らかにするとともに問題の解決方法を提案している。



図2. JR鹿児島中央駅のサインのシークエンス

今後の展望

地方においては、出生数の減少以上に若年層の流出による人口減少とそれに伴う高齢化が深刻な問題となっており、この問題に対して、若年層の定住促進や地域への入込数増加を目指した産業構造の変革、新たな産業の創出、育成が検討される中、多くの地方で、観光がキーワードとして取りあげられている。

地方に求められる観光資源を考えた時、都市部や他の地域にみられない、その地域が持つ自然や伝統的な産業があげられるが、観光資源となり得る魅力ある環境を多様な視点から抽出するとともに、その環境の価値を明らかにし、維持し続けることができるよう促していくことが必要となっている。

サウンドスケープ研究は、地域の魅力ある環境を抽出し、地域の新たな観光資源を創出するという目的以外に、その魅力を可視化することで地域の意識を高め、持続的に維持することを促すことができると考えている。

今後は、魅力のよりわかりやすい可視化に取り組む研究を進めることとする。

所属学会

一般社団法人 日本デザイン学会会員 (平成9年～現在)
一般社団法人 日本建築学会会員 (平成5年～現在)
一般社団法人 日本サウンドスケープ協会会員 (平成30年～現在)

主要論文・著書

池田岳史「社の魅力をサウンドから探る―北陸地方の神社サウンドスケープ調査―」一般社団法人日本デザイン学会、環境デザイン部会機関誌 EDブレイス87号、5、(2020)

藤田和秀、吉村朋矩、三寺潤、池田岳史「沿岸地域における避難誘導のあり方に関する基礎的研究―福井県高浜町和田地区をケーススタディとして―」公益社団法人日本都市計画学会、都市計画報告集15、341-344、(2017)

池田岳史、材野博司「街路空間における空間構成要素変化とその連続継起的表記」日本デザイン学会、デザイン学研究46巻3号、25-32、(1999)